

大堰川おほゑがはの水上は北丹波きたたんばより流れて、水尾川みづのを清滝川きよたきがはに落合ひ、猿飛さるとび、龍門滝りゅうもんたき、大瀬等おほせの名ありて、あらし山を帯し、渡と月橋げつけうを経て、末は梅津うめづ、桂かつらの里さとのひがしを流れて淀川よどがはに落る。

延喜の御とき大井川に行幸侍ける日

新古今 かげさへに今はと菊のうつろふは波の底にも霜や置くらん 坂上是則

拾遺 大井河川辺の松にことゝはんかゝる御幸やありしむかしも 貫之

同 色くゝの木葉ながるゝ大井川しもはかつらの紅葉とや見ん 忠岑

此河の流れはつねに清らかにして、千代に一度すむ水の黄河くわうがには引かへ、下す筏のかずくゝ、あるは遠近の騷人扁舟にみづから棹さしめぐり、その岸こゝの岩間によせ、春をとゞめぬ水のしがらみに花ををしみ、又浅瀬を瞰ふて縉を垂るあり、水上に踊る若鮎の鉤を争ふて牽動すを楽み、小石がちなる所へは網を敷て夜に入るまでも狩あるき、凜々たる河風に暑を忘れ、弥増の興に乗じて月に歩し帰るも多し。続文粹には天下の勝地は大堰川おほゑがはに過たるはなし、城中の名区は嵯峨野さあがのにしくはあらずとなん、右大臣うだいじん師房もろふさ卿きやうも宣しなり。